

平成28年度 第3回学校協議会議事録概要

日時 平成29年2月9日(木) 15:00~15:50

場所 大阪府立堺工科高等学校 図書室

1.開会のあいさつ(校長)

2.本校の状況

- (1)生徒指導<別紙資料>
- (2)進路指導<別紙資料>
- (3)生徒の資格検定取得実績<別紙資料>
- (4)その他

3.協議(平成28年度学校経営計画及び学校評価(案)の説明に基づき協議)

○確かな学力育成について。

(委員)生徒や保護者からは、朝学に一生懸命取り組んでもらっているので、学校教育自己診断アンケート結果では、基礎学力向上についての肯定率は前年度比17ポイント向上した。しかし、基礎学力診断テスト結果や先生からは基礎学力が十分でないと判断している。

(委員)中学校では年度によって学力にバラツキがある。分布も比較して分析を行っている。

(学校)診断テストは業者テストなので、多面的な分析もしてもらっている。平均点が伸びないのは、成績下位のゾーンの生徒の得点が下降していることによるものである。彼らのテストに対するモチベーションの低さが大きく影響していると推測される。

(学校)1年生の定員割れも一因ではないかと思われるが、今年度頑張って朝学に取り組んでいるので、来年度は上がるのではないだろうか。

(委員)朝学のように日々の積み重ねが重要である。また、効果的に行うには日々の授業の運営が重要である。先生の授業力向上とともに、生徒の授業を受ける態度、規律も大切である。それには、最終的に日々の生活に関わってくると思われる。

○生活指導の点から学力の効用というものを考えられないか。

(委員)基本的な生活習慣は学力と関係があるので、小学校でも中学校でも力を入れているので、遅刻も激減している。

(委員)企業の方から見ても、学力と遅刻は大きく関係していると思っている。正しい生活習慣を確立することは重要である。

(学校)遅刻、懲戒指導の他に、今後はマナー向上をめざしている。

(委員)授業を円滑に進めるためにも本人のためにも、遅刻をせずに授業に臨む習慣を身につけることが大切である。それによって学力が身につく、学校生活も楽しくなっていくといった良い循環が生まれるのが理想であると思う。

○就職について

(委員)就職状況は、他校に比べて、一次内定率がやや低く、3年以内の離職率がやや高い。

(学校)人間関係もあるだろうが、ミスマッチが考えられる。在学中からの職業意識ができていない。

(委員)インターンシップの参加者数が少ない。インターンシップをもっと活用すればよい。

(学校)本校は2学年が、7月下旬から8月上旬、期間は2~3日で実施している。企業の都合や、資格試験で行きたくてもいけない生徒もいる。

(委員)我が社もインターンシップを受け入れたいのだが、職場が暑く熱中症が心配である。冬休み、春休みだったら可能である。企業側として8月はお盆休み前で忙しい。決算もあるが3月頃が受け入れやすいのではないか。

(学校)府の商工労働部は、高校生のインターンシップは重要であるということで、26年度ぐらいから新規事業として位置づけている。この事業とタイアップしてNPO法人が委託を受け、専属のコーディネーターを配置している。

(委員)インターンシップは就職の際の企業選択の情報にもなるし、学校生活では得られない世の中の一端に触れることもできる。今後も継続して参加者数を増やしていくとよいと思われる。そうすると就職先のミスマッチの減少に繋がって行くであろう。

(学校)一次内定率の低さは、筆記試験を課していないところもあるので、学力に大きく関係しているかどうかは簡単には判断できない。ただ、SPIなど適性試験を課するところは増加傾向にある。

(学校)面接試験に対しては徹底的に対策を行っている。

(委員)人事担当から聞く話しでは、「いい子なんだけど・・・」とよく言われる。メンタル面の要素が

大きなウエイトを持ち始めている。配属される部署でその子が伸びていくかどうか、職場に影響を与えないかということもポイントになっている。人間関係を重視している。成績よりも性格的なものを考えながら選考しているとよく聞くようになった。

(委員)一般的に今の若い人は精神面が弱くなってきている。会社では年齢層の幅が広いので、年齢が大きく離れた年代の人とのコミュニケーションがとれにくくなっている。「注意」と「怒られる」の区別がつかないようである。

(委員)転職も離職とカウントしているのなら数字にとらわれることはない。離職が転職ならかまわないのではないか。

(委員)その人に合った企業を的確に見つけて続けることがいいことだと思う。進路変更して飛躍することもある。数字にとらわれることなくよりよい進路指導を続けていただきたい。

(委員)本校から堺工科へ進学した生徒の就職については、いいところに就職させてもらったと評判はよい。

(委員)よい形で就職していくには、3年間の日々の授業等の積み重ねが大切である。

○興味を持たせて学力をつけるには

(委員)まずしっかりした生活習慣を身につけることが重要である。

(委員)授業のやり方では、生徒の興味をひくことに様々な機器の活用もポイントになってくると思う。

(学校)機械は見るのがわかりやすく、視覚的な教材を集めているところである。ただICTを活用して興味をひくことも必要だが、それ以上の何か別のものが必要であると感じている。黒板にプロジェクターで投影しているだけでは興味の範囲ではないということがわかってきた。

(委員)伝える側の $+ \alpha$ でICTの効力が発揮される。

○まとめ

(委員)ICT等も活用して生徒の興味を引き出し、3年間充実した学校生活を送ってもらい、自分に合った会社に就職してもらおう。その結果として、基本的に長く働き続けていくことが理想のパターンではないだろうか。

(委員)生活指導面では、遅刻の減少傾向を維持し、正しい生活習慣を確立させるという指導をめざしてもらいたい。授業ではICT等も活用してよりよい授業を運営していただき、インターンシップもできるだけ多くの生徒に経験してもらって産業界に人材を輩出していただくようにご尽力をお願いしたい。

4.閉会のあいさつ